



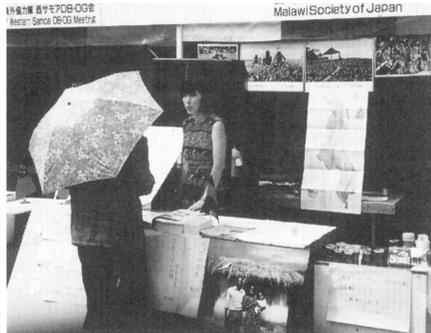
編集・発行：日本マラウイ協会 〒106 東京都港区南麻布 5-10-24 第 2 佐野ビル 702 Tel. 03-3447-2181 Fax. 03-3447-2933

KWACHA

No.16

96.5.10 現在為替レート US\$1=MK15.15

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。



▲マラウイ協会テントの様子

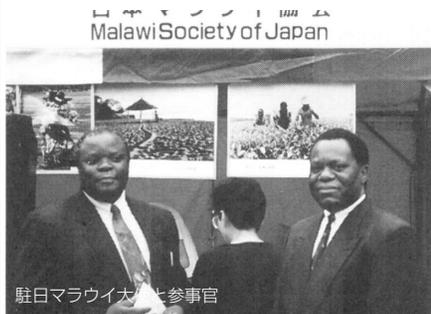
国際協カフェスティバル '95 参加

昨年 9 月 30 日～ 10 月 1 日にかけて東京・日比谷公園で「国際協カフェスティバル '95」が開かれた。これは外務省の協力で国際協カフェスティバル実行委員会が主催、国際協力事業団、海外経済協力基金などの共催で毎年おこなわれているもの。マラウイ協会は 2 回目の参加となった。

当日は割り当てられたテントに、マラウイ国内の写真パネルを展示し、当協会編集の国情紹介誌「マラウイ、The Warm Heart of Africa 第 2 版」や「旅行ガイド、マラウイへの旅」、「チェワ語辞典」、切手、民芸品、絵葉書などの販売を行った。また、駐日マラウイ大使館提供のチョンベティーを 2 日間で延べ 1,000 カップ以上、来場の方々に無料で飲んでいただくなど、マラウイの PR に努めた。

初日には駐日マラウイ大使の T.I.M.Vareta 氏と参事官の Z.T. Soko 氏も当協会テントを視察され、次回からの駐日大使館のさらなる協力を約束いただいた。

また、昨年度は協力隊発足 30 年目の節に当たることから、協力隊 30 周年記念ステージがあり、クイズのコーナーでは、当協会から葛木きぬ子 OG と河野典子 OG がステージに上り、マラウイに関するクイズを出題した。



駐日マラウイ大使と参事官

今回はマラウイの料理販売などを計画し、より多面的なマラウイの紹介に努めたいと考えているので、読者各位や関係者の方々の積極的な参加、協力をお願いしたい。

30 周年記念式典出席

昨年 10 月 26 日、協力隊発足 30 周年記念式典が東京・代々木木ノ原のオリンピック記念青少年総合センターで開かれ、当協会から貝塚専務理事、山村理事、上田理事、松平監事、桐田 OB、野村 OB らが出席した。

式典第 1 部は午後 2 時から始まり、まず、49 名の物故隊員に対する黙祷、君が代奏楽、JICA 総裁の式辞、天皇陛下のお言葉、河野洋平外務大臣 (当時) の祝辞があり、最後に、帰国隊員の感謝の言葉があった。



招待客で一杯のレセプション会場

第 2 部は「時を越えて伝えられる協力隊の心」をテーマに協力隊 30 年の歴史をまとめたビデオの上映、初の親子二代隊員となった OB と、帰国後、地域活動に携わっている OG へのインタビュー、そして当時訓練中の候補生で、昭和 40 年生まれの 30 才の人の自己紹介、会場全員による「若い力」の合唱で構成された。



▲アトラクションも OB/OG の手で

レセプションでは竹下登元総理大臣が祝辞を述べた。OB/OG による民族舞踊、民族楽器演奏など見事なアトラクションがあったが、久々に会う OB/OG 同士の飲食をしながらの懇談も熱

気があり、しばしば司会者の声もかき消され気味であった。

最後に高橋昭協力隊事務局長の挨拶があり、式典は 5 時半頃に終了した。

帰国報告会実施

3 月 24 日、東京・足立区の青年センターでマラウイ帰国報告会および同展示会を開催した。これは協力隊事務局が (社) 青年海外協力協会を通じて協力隊発足 30 周年記念事業として行う東京 OB 会のイベントの 1 つに当協会が協力したもので、足立区の青年センター祭に参加す



▲展示の様子

当日は午前 10 時から午後 4 時まで、青年センター 2 階の会場でマラウイ国内の写真パネル約 20 枚、民芸品、おもちゃ、切手などを展示したほか、駐日マラウイ大使館提供のチョンベティーの試飲会を行った。また、昼食時間帯にはシマとおかずの販売を行い好評を得た。

午後 0 時から 3 階の講堂で帰国報告会を行った。報告の前に、駐日マラウイ大使の T.I.M.Vareta 氏から挨拶があり、マラウイと日本は協力隊員を通じて関係が深いこと、本報告会を聴いてマラウイへの理解が深まることを期待すると述べられた。

報告は磯畑祐司 OB (平成 3 年度 3 次隊、歯科医師) が、訓練時代、現地での生活事情、医療事情などをスライドを使いながら約 1 時間にわたり行い、集まった足立区民等から好評を得た。



▲帰国報告会の様子

マラウイ短信

母の日記念、大統領演説

ハキリ・ムルジ大統領は昨年 10 月 9 日、母の日を記念するラジオ演説で、女性に対する虐待や、暴力を助長する古い慣習をやめるよう呼びかけた。

演説の中で大統領は「女性が劣っているとか、見下してもよいということは我々の文化にはない。女性を性的に虐待したり、いかなる形でも暴力をふるったものは厳罰に処す」と述べた。

携帯電話サービス開始

昨年 12 月、マラウイ国内で携帯電話サービスが始まった。これはマラウイ郵便電気通信公社とマレーシアの電気通信事業者テレコムマレーシアが合併で設立したテレコムネットワークスが始めたもの。当面はリロングウェ、ブランタイア、ムズズ、ゾンバの 4 都市がカバーエリアになる。

バンダ前大統領無罪

ブランタイア高等裁判所は昨年 12 月 23 日、1983 年の閣僚・国会議員殺人事件でバンダ前大統領、ジョン・テンボ元国務大臣、セシラ・カザミラ女史および 3 人の元警察官に無罪を言い渡した。マラウイ政府は 1 月 4 日、最高裁判所に上訴した。

バンダ前大統領、国民に謝罪

バンダ前大統領はマラウイ会議党が有する新聞の 1 月 5 日付け 1 面で新年のメッセージを発表し、自らの 30 年間の政権中に国民に与えた苦痛に対して次のように謝罪した。「私は政権中、貧困、無知、疫病に対する戦いにおいて母なるマラウイのために全身を捧げた。しかし、もしその過程で私の政府で働いていたものが、または私の名前を偽って、または全く私が知らないままに、国家の名のもとに国民に苦痛をもたらしたとすれば、ここに深く謝罪する。」

マラウイ各地で洪水

2 月 5 日、マンゴチ周辺の 9 つの小さな村で洪水が発生し、800 名以上が家を失い、メイズ畑や舗装道路が激しい雨で流された。

3 月 23 日から 25 日にかけては、ンサンジェ地方のモザンビークとの国境近くのディンデ湿地帯で洪水があり、およそ 4,400 名が家を失った。マラウイ政府は 25 日、医薬品、食料、毛布などの救援物資を現地に発送した。

大統領、犯罪対策指示

バキリ・ムルジ大統領は 2 月 16 日、警察と軍に対し、約 2 年前に就任して以来増加している犯罪を取り締まるため、国内の武器を徹底的に捜索するよう命じた。

バンダ前大統領財産売却

バンダ前大統領は 3 月 21 日、無罪になった殺人事件の裁判にかかった費用を払うため、200 万ドル以上の財産を売却したことを明らかにした。これについて前大統領は、自分を陥れるために様々なすい方法を使った政敵のために、私財を売る決心をすることになったのは辛いことだと述べた。

経済改革軌道に

アレカ・バンダ大蔵大臣は 3 月 22 日の国会で来年 3 月までの新予算を明らかにし、94 年の GDP10%以上の低下に対して、95 年は 8.5%成長したと述べた。

成長の要因として大臣は、農業の生産が伸びたことと、世界銀行と国際通貨基金による厳しい経済改革計画のもとでの会計金融政策を挙げた。

補償申し立て法成立

マラウイ国会で 3 月 25 日、前政権下で不法行為を被った人は、1964 年 7 月 6 日から 1994 年 5 月 17 日までの政府を構成した政党、機関、団体、人物に対して補償を申し立てることができるとする法律が通過した。この法律により、現政府は補償の責任を回避できる。

自主退職制度発足

マラウイ政府と政府機関労働者組合は 4 月 1 日から自主退職制度を発足させることに合意した。50 歳を越え、勤続 20 年以上のものを対象とし、制度による退職者には優遇措置が講じられる。

アジア人の商行為再認可

マラウイ政府は 4 月 17 日、28 年前に国内の地方で商行為をすることを禁じられたアジア人に対し、再び商業活動を認可すると発表した。これは国会がアジア人の地方での商行為を制限する 1968 年の法律を廃止したことによるもの。



新紙幣、コイン発行

マラウイ準備銀行は、バキリ・ムルジ大統領の肖像入りの新紙幣とコインを 4 月 22 日に発行すると発表した。国会は 4 月 11 日、通貨には故人、現存を問わず人物の顔は載せるべきではないと決議しているが、銀行側は、これは 1995 年の MK200 札発行に始まった計画の継続としている。

エイズ会議開かれる

4 月 24 日、マンゴチでエイズ会議が開かれ、世界保健機構 (WHO) のアフリカ担当部長のエブラヒム・サンボ氏が「15-24 歳の若い兵士は、性的に活発で家から長く離れているのでエイズのハイ・リスク・グループに入る。」と述べた。また、マラウイ防衛大臣のジャスティン・マレウエジ氏は「開発途上国、とりわけアフリカの軍隊の兵士のエイズ罹患率は非常に高い。よく訓練された陸軍、空軍兵士は特に危険率が高いと思われ、それら兵士を置き操るための新しい兵士を訓練するのは困難と思われる。」と述べた。

第 2 副大統領辞任

5 月 2 日の BBC (英国放送協会) アフリカサービスは、AFORD (民主同盟) 党首のチャクワ・チハナ氏が第 2 副大統領職を追われたと伝えた。これは内閣改造の一環として行われたものであるが、AFORD 側は辞任したものと主張している。UDF (統一民主前線) のバキリ・ムルジ大統領とチハナ氏は、チハナ氏がムルジ氏の汚職を追及していたことと、UDF の広報官がチハナ氏を精神錯乱者と評していたことをめぐって緊張が高まっていた。チハナ氏は BBC のインタビューに「私はムルジ大統領に国を発展させていく機会を与えるために辞任した。私自身は大統領による安定的な政府を作るために触媒の役を果たしてきた。しかし、動きがないので辞任した。」と語った。

KANDODO での物価

イースターの休日前の KANDODO (スーパーマーケット) での特別価格は次の通り。

カスタードクリーム 1 箱	MK7.50
チョンベティ、500g	MK14.50
タンバラ米 1kg	MK13.75
タンバラピーナツバター、400g	MK17.50
ライフブレイク石鰯	MK3.30
コボ料理油、1 リットル	MK29.75
(MK1.00= 約 6.8 円)	

アンケート結果

当協会では昨年 9 月 20 日発行の KWACHA 第 15 号に合わせて、今後の活動について会員の皆様からご意見をいただくため、葉書によるアンケートを実施しました。回収枚数が思いのほか少ないので、生の声をできるだけそのまま載せることにしました。

- (1) 配布葉書枚数 174 枚
 回収葉書枚数 27 枚
 回収率 15.5%
- (2) 各質問項目に対する回答集計

1. 現在行っている広報活動、機関紙 KWACHA、News Letter の内容について

- a. このままでよい。 15 枚
- b. 増やして欲しい記事
 無記入 2 枚
 記 入 10 枚

マラウイの近況、新しい分野の隊員の様子・事情／現隊員からの生活情報／現隊員からの現地便り／Japan Times だけでなく日本で入手可能な海外紙のマラウイに関する記事／農業関係の記事／物価など生活に直接関係のある内容／生活状況や観光案内／英文ニュース・町の様子紹介／アフリカ料理の店・アフリカ雑貨の店の特集／各都市や村の情報

- c. 減らして欲しい記事
 無記入 11 枚
 記 入 1 枚

「世界のマスコミから」は News Letter に統合できるのでは？

- d. 載せて欲しい記事
 無記入 9 枚
 記入 3 枚

現地人の生活に関する記事／マラウイ周辺の旅行ガイド／会員の日本でのボランティア活動（直接マラウイと関係しなくてもよい）

2. 一昨年発行した、国情紹介誌と旅行ガイドの内容、その他についての意見

- 無記入 13 枚
- 記 入 14 枚

編集者の苦勞がわかる。何年か 1 度の改訂版を／好評なので、さらに内容の充実を／作製したスタッフの苦勞を憶える。良いものができた／よく出来ていると思う／大変よい／懐かしく拝見した。現状でよい／このままでよい／出来る限りリアルタイムの情報を／変化が激しいため、毎年改訂する必要ある／さらに内容が増えていくとよい／現地隊員に見せて現状にあったものにして欲しい／ジコモの任地紹介特集の転載はどうか／見所豊富なデッサが抜けている

のは手落ち／また、いつか行ってみたい／紹介誌と旅行ガイドを見ていないのでわからない

3. 毎年開催しているシマを食べる会（懇親会）についての意見

- 無記入 11 枚
- 記 入 16 枚
- 時期・内容とも今までどおりでよい。… (4 枚)
- 時期に関する意見 (3 枚)
 (8 月頃、秋の日曜祝日に、子供も参加できる第 2・4 土曜日など)
- 地方での開催を希望する意 (4 枚)
- 引き続き開催を希望する意見 (4 枚)
- シマの宅配を希望する意見 (1 枚)

4. 援助活動、奨学金制度などを計画しているが人手不足と実行裏未作成のまま立ち遅れている。実行委員として参加を：

- 希望する 4 枚
- 希望しない 15 枚
- 希望しないが何らかの協力をしたい 4 枚
- 無記入 4 枚

実行裏作成に向けての意見

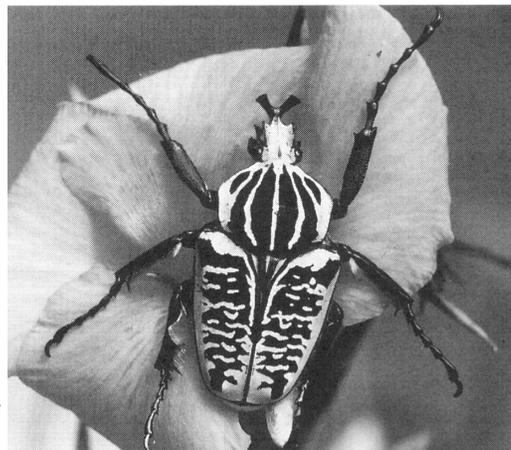
- 無記入 18 枚
- 記 入 9 枚

奨学金の運用は気をつけて。北と南で小学校卒業テストの平均点が 100 点ぐらいちがう。一部の金持ちの子息がとってしまわないように／援助が最終目的まで届くか管理する必要がある／日本国内でのアピールが必要／郵便局のボランティア貯金の交付を受けられるような体制を作っては／地方にいるのでなかなか参加できないが資金・物資などの援助はできると思う／遠方の人にも何か出来ることがあればいいが／是非実行して欲しい。計画には協力する／やっている人の苦勞はわかる。誰かがやるしかない。とにかくタマを投げつけて／まだよくわからない

5. その他意見

- 無記入 14 枚
- 記 入 13 枚
- 編集部、実行委員に対する励まし (4 枚)
- 特定の範囲での協力申し出 (2 枚)
- 遠方でも協力できる工夫を望む (1 枚)
- 今はできないがいずれ参力ロしたい (2 枚)
- その他 (4 枚)

編集部から 回答をお寄せ下さった皆さん、ありがとうございます。私たちも生業を持っています。時間の許す限りご要望に沿うよう努力しますが、出来ない部分はお許しください。



連載 マラウイの生き物たち

昭和 63 年度 3 次隊 松平隆一

サザナミゴライアスツノコガネ (Goliathus albosignatus)
アフリカ南東部に分布するツノコガネムシ。樹液に集まる。日本のコガネムシ位の大きさであるが動きはものすごく敏速。雌はやや小型で角がない。

インターネットとマラウイ

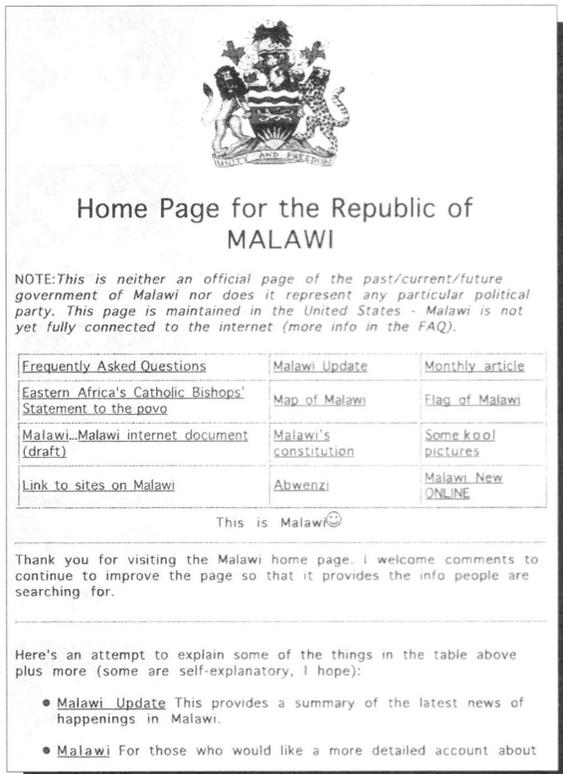
53 年度 2 次隊後期組 無線通信機 上田秀篤

「インターネット」、最近では書店に行くところの雑誌のコーナーができていたり、新聞の一般紙でも話題に上らない日がないくらいポピュラーになってきました。皆さんとインターネットの関わりはいかがでしょうか？私は昨年 9 月にパソコンを購入し、12 月にインターネットプロバイダーと呼ばれる接続業者と契約し、半年が過ぎたところです。

インターネットでは色々な応用があるのですが、画像と文章情報を併せて発信し、受け取ることができる WWW (World Wide Web) と呼ばれるメニューが人気を集めています。

この WWW では日本の大手新聞社はもちろん、アメリカの New York Times、CNN など世界中の報道機関がニュースを流しています。

企業や個人も情報を発信しています。この WWW 網を渡り歩く「ネットサーフィン」が流行しています。とにかく、自宅にあるパソコンのマウスをカチッカチッとクリックするだけで、今見ている日本のある情報ページからアメリカの別の情報ページに瞬間のうちに飛んで行けるのですから、世界は急激に狭くなります。これら情報の目次にあたるページを「ホームページ」と呼びますが、先日、マラウイのホームページを発見しました。URL (電話番号のようなもの) は <http://www.math.unh.edu/~llk> です。まさか本国から？・・・と思ってよくみるとアメリカのニューハンプシャー大学に留学している？ Lolsten Kaonga というマラウイ人が作っているみたいです。冒頭にはマラウイの国章を配置し、次に「このページは過去／現在／未来のマラウイ政府の公式ページでもないし、特定の政党を代表



Home Page for the Republic of MALAWI

NOTE: This is neither an official page of the past/current/future government of Malawi nor does it represent any particular political party. This page is maintained in the United States - Malawi is not yet fully connected to the internet (more info in the FAQ).

Frequently Asked Questions	Malawi Update	Monthly article
Eastern Africa's Catholic Bishops' Statement to the povo	Map of Malawi	Flag of Malawi
Malawi_Malawi internet document (draft)	Malawi's constitution	Some koo! pictures
Link to sites on Malawi	Abwenzi	Malawi New ONLINE

This is Malawi 😊

Thank you for visiting the Malawi home page. I welcome comments to continue to improve the page so that it provides the info people are searching for.

Here's an attempt to explain some of the things in the table above plus more (some are self-explanatory, I hope):

- [Malawi Update](#) This provides a summary of the latest news of happenings in Malawi.
- [Malawi](#) For those who would like a more detailed account about

マラウイのホームページ

するものでもない。」と書かれています。

また、NYASANET (マラウイの前の国名 Nyasaland から取ったと思われる) という電子メールネットワークの紹介をしています。これは、一人がメッセージや意見をメールセンターへ送ると、自動的に同じ内容が全会員へ配信され、それについて誰かがメールセンターへ返信すると、それも全会員へ配信されディスカッションすることができるシステムです。ディスカッションだけでなく、世界各国に散らばっているマラウイ人や関係者にいろいろな情報を求めたり、またそれを伝える機能を持っており、このホームページを覗いた人に参加を呼びかけています。参加は無料です。メンバーになるには nyasanet-request@unh.edu へ、投稿するには nyasanet@unh.edu へ電子メールを送るよう案内されています。私もメンバーになりましたが、毎日 1～7 通くらいの配信を受けています。中にはリロング工に住んでいる人が定期的にマラウイのニュースを送ってきてくれています。(多分、南アフリカ経由で)

ホームページからは色々な情報に飛んで行けます。「Map of Malawi」、「Flag of Malawi」という赤い色の字をクリックすると、それぞれマラウイの地図と国旗がカラーでジワジワと現れてきます。本当に懐かしかったのは「Some koo! pictures from Malawi」というのをクリックして、私の任地だった Zomba のマーケットのカラー写真を見たときです。よく通いました。15 年前と変わってないみたい。「MalaWi Update」というのもあって、ここをクリックすると最近のマラウイ国内のニュースの要約が見られます。バンド前大統領の裁判のニュースもありました。また、マラウイ政府がマレーシアの TV3 というテレビ会社と契約書を交わし、テレビサービスを始めるというニュースもありました。

また、マラウイの憲法、旅行ガイド、その他のアフリカ関連の情報もこのホームページから飛んでいけ、とても見切れません。本当にこれだけのページをよく作ったなと思います。

今までのメディアでは、これほどマラウイの情報は入ってきませんでしたが、インターネット上にはこんなにも情報が流れていることを知り、時代は変わったなと実感しました。

その他のページでもマラウイやアフリカ関連のニュースや情報が得られます。私がよく見るページの URL を挙げておきます。

Southern Africa News

<http://www.nando.net/ans/south/ANSsouth.html>

Panafrican News Agency

<http://www.nando.net/ans/pana/FEED/PANAFEED.html>

News : Eye On Africa

<http://www.webperfect.com/afrinet/news.html>

AFRICA ONLINE:NEWS STAND

<http://www.AfricaOnline.com/AfricaOnline/newsstand.html>

The(Zambia)Post

<http://www.zamnet.zm/zamnet/post/post.html>

マラウイの情報に飢えている OB/OG の皆さん、インターネットを始めませんか。現地隊員機関誌「ジコモ 116 号」(95 年 10 月)によると、隊員で南アフリカ経由でインターネットを活用している人がいます。将来はマラウイ現地隊員 /OB/OG の電子メールネットワークが出来れば良いなと思っています。

Information Corner

■日本マラウイ協会ビデオライブラリーについて

日本マラウイ協会では当協会のオリジナルを含むマラウイやアフリカ関連などの作品を収録したビデオテープを、広く会員の皆様に返送費のみのご負担で貸し出しております。ビデオテープは全て VHS で収録時間は 1 本 60～120 分。会員への貸出しを優先しますが、会員以外の方にも可能な限り貸し出いたします。申込み、問い合わせは葉書で下記の当協会までお願いします。

■入会のおすすめ

日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan) は日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。電話をいただければ入会申込書

をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計 (個人正会員の場合 1,000 円 + 3,000 円 = 4,000 円) を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安く便利です。)

〒106 東京都港区南麻布 5-10-24 第 2 佐野ビル 702
日本マラウイ協会
TEL03-3447-2181 FAX03-3447-2933
三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739
口座名義人 日本マラウイ協会名誉会長 卜部敏男

郵便振替 00190-7-13125 (旧用紙 東京 9-13125)
加入者名 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。